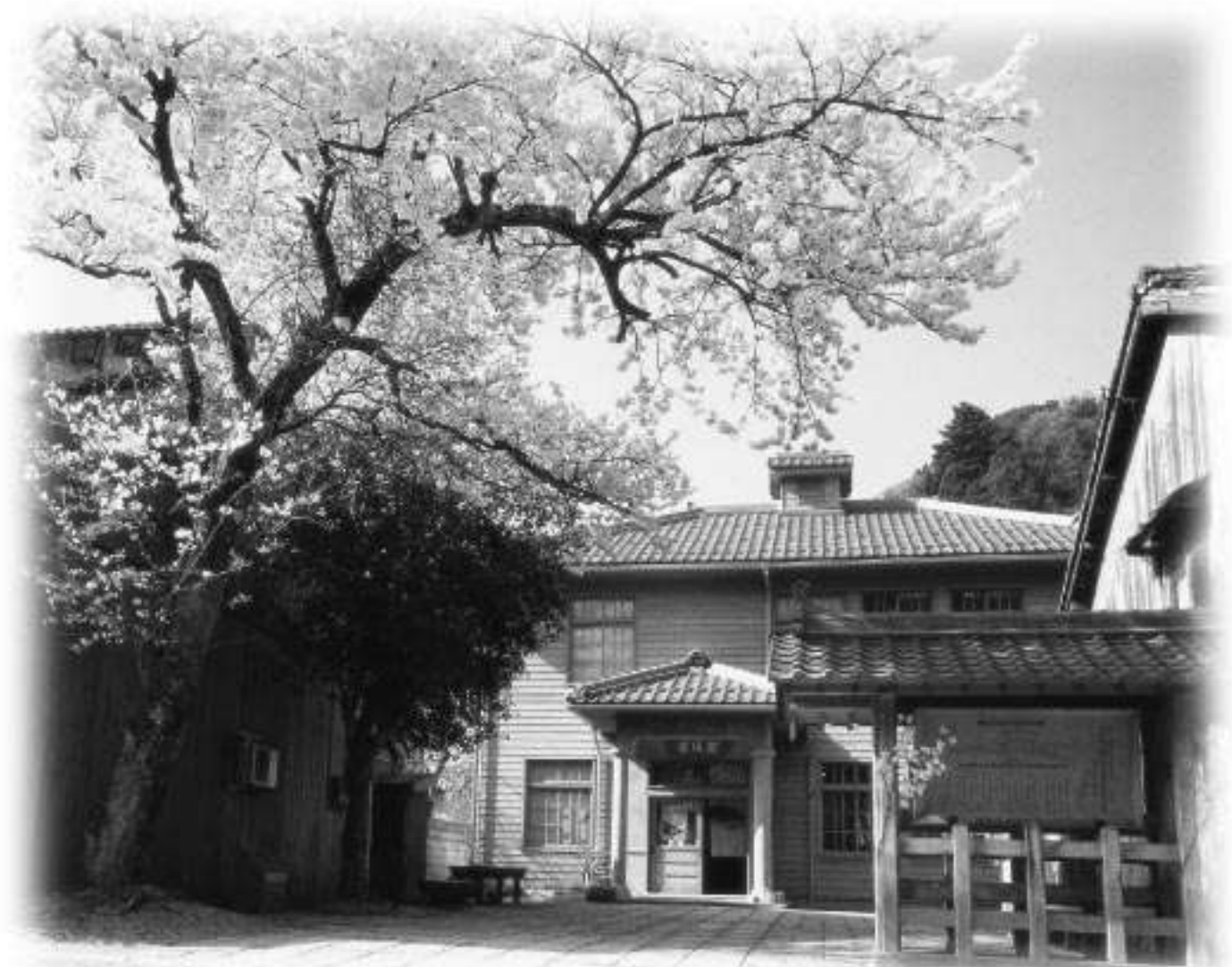


鯖街道 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県速敦郡上中町熊川
TEL/FAX (0770)62-0330



若狭鯖街道熊川宿資料館 宿場館

熊川宿の街道の中ほど、少し奥まったところに、若狭鯖街道熊川宿資料館「宿場館」があります。

前庭には一本の桜の木があり、毎年見事な花を咲かせてくれます。今年は例年より約十日ほど早く満開を迎えました。

「春は花、夏ほととぎす、秋紅葉、冬雪さえてすすしかりけり」という歌がありますが、日本の四季おりおりの美しさは世界に類を見ないものです。

熊川にも春夏秋冬それぞれの美しい景色があります。人にも感情があるように季節ごとの表情があります。今は花から若葉の季節に移ろいました。

この熊川宿唯一の近代洋風建築は、熊川の偉人、伊藤忠商事二代目社長伊藤竹之助翁が熊川のために建てた村役場です。鬼瓦には「役場」の文字が見られます。

今年で還暦を過ぎた六十二才。いよいよ長生きしてほしいと思います。

熊川宿	1
寄稿文	2・3・4
活動報告・話題	5
活動報告・行事	6

荒れる城址

嶺南病院理事長 岡本 健一

過日、思い立って熊川城址を訪ねて驚きました。

白石神社倉庫の後部を回っても、数年前にあった、有志の人々の奉仕作業で造られた心の籠った階段は、殆ど原形を止めていませんでしたが地形の思い出を頼りに辿りました。

今度は何故か登山靴を履いて行ったので大助かりでした。(前回は普通の革靴) 太い倒木が道を塞いでいたり、私の二抱えもある程の木が立ち枯れてもいました。

息を弾ませて登って行ったのですが、主郭の平に上がって、大きな熊川城の説明板が、前回と同様にしっかりと立っているのを見て、無事で良かったなあと話しかけたい思いでありました。

然し、周辺は更に種々の木々が成長していき、数本の老松も取り囲まれ、残念な

がら松籟を聞くことは出来ませんでした。

整理されて、木の間に隠れにでも町の家並みが見えて、遠くに過ぎた中世に思いを馳せる事が出来れば最高だと思いました。

それにつけても、町並みの鳥居から見上げる参道の石ころ道が、やさしく修復されると身軽に登れますし、道の側面に、熊川の中世よりの歴史の変遷を、物語風にやさしく解説した案内板が設置されると城址に登る人も増え、宿場と言うイメージに、熊川の持つ別な側面が複合的に印象付けられると思います。

二十余年以前に、小浜市や上中町の教育委員会から、「中世城館」

について、大森宏先生を中心に行われた調査研究書を頂きました。その中に、朝倉攻めに破れた織田信長を、沼田城主の家人の沼田某と言う人が、京都まで信長を送って行ったと古文書を基に記述されており、大森氏と共同調査をした叔父の



亀井清に種々の話しを興味深く聞きました。

家康や秀吉が軍団と共に奔めき合いながら、この谷間を通過して行った様を偲んで感慨を催し、再読三読したものでした。

ささやかな集落であった熊川も、軍事的見地から着目され、有名な「諸役令免除」のもとに人や商いが集中して、後の繁栄に繋がった訳ですが、遠くは、平安時代から、群雄割拠の戦国時代を通じて人々の行動の集積が熊川宿を形成する根本にあったのだと思います。

その意味で、熊川宿の町並みと古城址とは、複合的なものであり、総合的に整備されて、深みや厚み

のある、他に類の少ない存在になると思います。

町並みの「中ノ町」は素晴しくなりましたが、更には「下ノ町」から「上ノ町」へと整備されてゆく様であり、義民館の整備も予定されていると聞きます。

城址が崩壊に曝された仮では、熊川宿の完全な復元はならないのではないかと危惧します。経費などで、公に対してお願いせねばならぬのは勿論ですが、厳しい世相ながら、民間も応分の努力が必要だと思えます。

知識も浅いままに書き連ねましたが、お許しをお願い致します。

生活の流れ

小林 美花

十年ひと昔。ずいぶん前からよく耳にする言葉ですが、今の私にとってこの十年間での移り変わりは本当に様々な事がありました。

十年ひと昔。ずいぶん前からよく耳にする言葉ですが、今の私にとってこの十年間での移り変わりは本当に様々な事がありました。縁あって嫁いだ先が熊川宿の番所跡。勢いのいい清い水の流れがとても印象的でした。(後で前川

という名前を知りました。) 一方で「かわと」や「曲がり」。何が何なのかさっぱり意味不明でした。

そんな熊川、番所での生活で妻となり、母となりました。しかしいざ生活し始めると、その番所がおせいじにも生活し良いものではないありませんでした。家の中には、

石垣があり、それも、三十センチ近い段差でその上り下りは、ちょっとした汗かきものでした。(少し大げさですが...) その後、熊川が

光風な流れの中で

石倉 滋 よ

蔵の窓から覗く桜の枝振りを見るのが好きでその姿の移り変わりから季節を感じる。

ここ熊川にはいつも優しい風がながれていると思う。春の穏やかな日であれば当然のこと、たとえ真夏の炎天のもとであり、真冬の風雪のときであるうともそれはそれなりに優しいと思う。



特別「熊川宿」にごまをすっているわけではないのだけれど、人には持つて生まれたものがあるように、これは「熊川宿」の持つて生まれたものではないかななどと思ってみたりする。

それでこそ出逢う旅人は皆おだやかで私のようなのんびり者でも一応「お店屋さん」が出来るのだと思っている。

もうそろそろ「まだ出来ませんか!」とお叱りの声がとんできても、ごもつもの時……

「お待たせしました!」

「ア、ハイハイ!」

ニコリ笑ってもらった時のありがたさ。

人とは元来やさしいものなのだとあらためて悟り、蔵の中を「見ていくだけ」のお客様も大歓迎、梁の太さなどを愛でるその感嘆の声からどれだけの元気をもらったことか。

そして同時にこの町並みづくりのために力を尽くされた先人の方々、また今尚ご尽力頂いている方々に思いを馳せる。

「村あげて往時に戻す宿場町」

多くいらつしやる先人の方の中で

直接お話したことのあつた逸見監治さんのこの句を思いだし（今、空の上から最近の熊川宿をどう見ているらつしやいますか?）と問いかけてみたくなる。

そして私のような新参者が今ここに縁を受けたことをありがたいたいことと思ひ、熊川宿が多の旅人のいやしの舞台になるのならその中の「店の人A」を楽しみながら演じていたいと思う。

よみがえる番所

(ばんしよ)



現在の番所跡

重伝建に選定され、ひと際全国から脚光をあびる様になり、熊川をおとずれる人の数が増えてくるのがわかり、昔、宿場町として栄えていた頃の様子が、現代風によみがえった様な気がしてとても嬉しく思っています。

そんな暮らしの中、以前から検討されていた番所跡復元が現実のものとなる事が決定、更には新築工事が開始し、気が付くと、新しい家で生活するイメージだけが頭の中いっばいに広がっていました。けれども、いざ新築完成、引っ越しが近づくと、家族みんなが、淋しい気分になったのも事実です。

しかし、新しい家での生活が始まった今、この家を守り続けていかなければならないのは、

私達ですし、今まで番所跡を守って来て下さった義父、母、そして御先祖様に感謝の気持ちも忘れてはいけないと思っています。

今後は、復元される番所跡を、熊川一住民として、皆様と一緒に見守っていきたくと思っていますし、幼い子供達もここで生活した事を、一生の思い出として心に持ち続けていく事でしょう。



Q 番所ってなあに?

A 幕府が設けた街道通行の人と物資の検問所を「関所」といい、幕領や各藩で領民の出入りや物資流通の統制を行なった施設を「番所」といいます。

熊川番所は、重伝建選定地区内に元位置のまま現存する全国唯一の貴重な歴史的建造物であり、この番所を復元整備することは大きな意義があるといえます。

我が郷土を思う～お便りより～

京都市在住 q 木丸美江(旧姓：平谷)

いつも町並み通信「鯖街道熊川宿」を送って頂きまして有難うございます。月日の流れの早いのに驚いています。早五号の発行に胸踊らせながら、見事な我が郷土の発展に感謝しながら、すみからすみまで読ませて頂きました。

皆様方の多大の御辛苦を思うと何も出来ない私共の恥ずかしさが先に立って、喜ぶよりも気が引けてしまいそうになってしまいます。故郷を後にして五十余年も経つてしまい行き交う人々誰も知らず又忘れてしまいそう。同級生を頼りに、そと、のぞかして頂き変わり行く郷土をなつかしく眺めている様な始末。

この様に発展して行く熊川を遠くから喜んでいられる私。一日たりとも忘れた事のない我が郷土。どうぞ在郷の皆様、御身体に御注意なさって熊川宿発展を目指して御励み下さいます事切にお願い致します。

では皆様様の御健康をお祈り致しつつお別れします。

熊川宿「ほっと想い出工房」

ギャラリィふれ愛物語

上中町商工会事務局長 水瀬信治

熊川宿「ほっと想い出工房」を覗いて戴きましたでしょうか？この工房はギャラリィ等を通じ人と人のコミュニケーションステージです。

上中町商工会では平成十三年度に県町等の中小商業活性化推進事業の指定を受け、熊川宿町並みの空き店舗を拝借しギャラリィ工房を開設させて頂きました。本制度は地域商業の振興策を探る事業です。

この施設もオープンから町内外を問わず多くの方々から寄せられ、特に熊川地域にお住まいの方々が工房へ出展戴いた方及び観光で町並みを見学に訪れられた方々等が互いに文化と人情を肌で感じられたことと推察致します。

工房で



のギャラリィイベントには町内外より多くの方々に出展願いましたので御紹介させていただきます。

①平成十三年十二月七日～十六日

「花と熊川宿・おし花展」風を知り自然を知り人生を知る…。

講師：田中幸代様(上中町)

②同十二月十八日～二十八日

「ネイチャーフォート展」自然より美しく清らかに(光と雲と露と)

出展者：長谷登祐様(上中町)

③平成十四年二月五日～十日

「押し花展」幻想的な夜桜風景画やタバストリー、コースター等々

出展者：石井蓮美様(敦賀市)

④同二月五日～二十四日

「ネット」一版「二台のコンピュータ」を期間中自由に検索OK

指導者：倉谷正大様(小浜市)

⑤同二月十五日～十七日

「カントリー雑貨展」敷物やバッグ等のパッチワークカントリー調衣裳を飾りつけた人形等々

出展者：吉見淑衛様・佐々尾千代美様(敦賀市)

⑥同二月二十一日～二十四日

「お食事処CG展」旬の食物をコンピュータグラフィックスで表現した遊び心たっぷり作品等

出展者：松本俊久様(敦賀市)

⑦同二月二十一日～十一日

「ツールペイント作品展」木材等に絵を施した壁飾り、手鏡、小箱等

出展者：世織純子様(大飯町) 長谷川直美様(高浜町)

⑧同三月十六日～二十四日
「ペン画スケッチ展」優しいタッチで描かれた若狭地域の風景画等
出展作者：武藤永二郎様(小浜市)

この様に多彩な内容の参加協力を得ることができました。

又、熊川いっぶく時代村の開催中には商工会女性部等によるバザー店舗として祭りを盛り上げました。

尚、商工会が県等から受ける本事業に係る指定支援は平成十三年度の単年度のみですが、熊川宿を訪れられる観光客等の憩いの場として諸条件が整い関係各位の理解が得られるならば実験店舗での実態等も考慮し存続の必要性を感じます。

幸いにして、「熊川宿想い出倶楽部」名称の組織が発足した旨伺っております。経済情勢が厳しい状況下にあります。今後の「ほっと想い出工房」管理運営等に大きな期待を寄せている次第です。

最後に、平成十三年度中に本事業推進に御支援御協力を賜りました関係各位に衷心より感謝申し上げますと共に、熊川宿の文化経済の更なる発展を御祈念申し上げます。



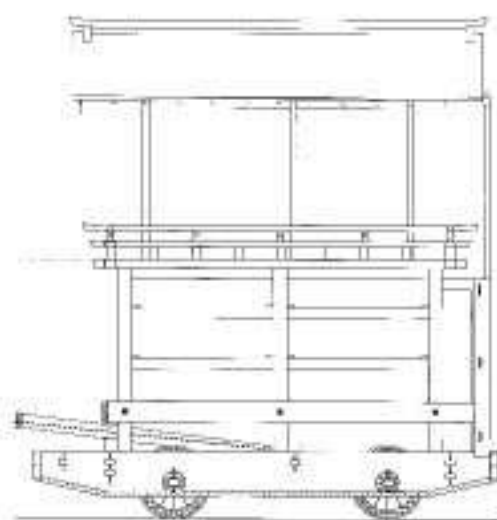
修景前の下ノ町

蘇る町並み——下ノ町から電柱が消えた!?

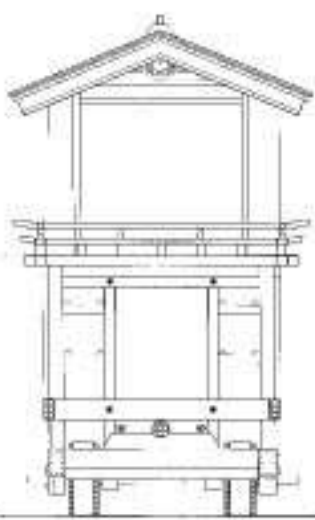


修景後の下ノ町

直線的な町並みが展開する下ノ町の電柱移設工事がこのほど完了しました。下ノ町の電柱は各家屋の後方へ移設されました。中ノ町と同じように広々とした街道が蘇りました。



側面立面図



正面立面図

図面作成：柴田純男氏

一昨年秋、残る山車の部材を組み立てて行なった実測調査をもとに左のような図面が完成しました。



大正時代の山車巡行のようす
(写真提供：遠見啓市氏)

華やかな祭りを再び…山車復元に向けて 山車の設計図が完成!



平成十三年度ふるさと文化再興事業「地域伝統文化活性化フォーラム」が三月七日、東京で開かれました。河合会長が全国からの二百名を前に、熊川宿のまちづくりの歩みや近況などを発表しました。

伝統文化活性化フォーラム(東京)



平成八年から十二年までの間に三十一軒の民家の修理の事例をまとめたもので、所有者の感想や福井宇洋先生からの講評も掲載されています。

上中町教育委員会はこのほど、「熊川宿の町並み保存一五年間の歩み」報告書を発行しました。

五年間の歩み報告書を発行



京都・一乗寺の河村様ご夫妻をお迎えし、今年もてっせん踊りの練習会が始まりました。今回初めて「吾妻くたたり」に挑戦しました。毎月十日と二十日に練習会を開いておりますので、遊びがてら覗いてみてください。

てっせん踊り練習会始まる



12/5

まちづくり同窓会

日本ナショナルトラストの米山先生を七年ぶりにお迎えし、技術の会と共に合同学習会が開かれました。日本のお話だけでなく、イギリスやフランス、アメリカの事例を交えたお話を聞くことができました。



熊川製菓

12/2

熊川葛を全国放映

NHKBSの『おいしい！ につぼん今日はどことん福井県』で熊川葛が紹介されました。この他にも葛製品やこんにやくなど熊川の特産品がテレビ各局で紹介されるようになりました。



リハーサル風景

12/2

熊川音頭を福井で熱演

民謡歌手恩地美佳さんのデビュー10周年記念コンサートがハーモニホールふくいで開かれました。熊川宿からも十数名が参加し、美佳さんが唄う熊川音頭に合わせて踊りを披露、拍手喝采を頂きました。



4/13・14

あったらもんシンポジウム

全国町並み保存連盟の平成十四年度春季幹事会が賀市民会館(石川県大聖寺)で行われ、事業計画や会則改正などが協議されました。二日目は、東大教授の西村幸夫先生も参加され意見交換会がありました。



2/23

若狭地区ふるさとづくり大会

「てっせん踊り」の「熊川宿伝統芸能保存会」が市町村民運動優良実践団体表彰を受けました。日頃から練習を積み、祭礼やイベント等で披露、地域に根付いたまちづくり活動が評価されました。



2/5

紙すき研修 奥坂本「風草會」

酒井由美子先生の工房で紙すきを習いました。我勝手に作品を見せたり紙すきの話しをしたり。そして工房の裏手に回り、竹紙のすき方を習い、各自が実際に竹紙をすき、先生の指導を受け、作品を批評し合いました。後日、その作品が届きました。

ちょっとご紹介



週刊「日本の街道」シリーズ(講談社刊)創刊号に熊街道が特集されました。街道各地の写真が大変奇麗に仕上がっています。

あとがき

風薫る五月、新緑が鮮やかに町並みと調和しています。

この好季節に大型バスでの団体客やグループ、若いカップルなど連日多くの方が訪れています。

このほど下ノ町の電柱や電線がなくなり、またひとつ町並みが美しく蘇りました。

今年は松木長操先生の三百五十年忌の年です。また、番所の復元や権現神社の修繕、山車の復元、見送り幕の新調、更には町並み憲章の制定などが計画されています。

また「まちづくりフォーラム」や「盆踊り」、恒例となった秋のイベント「熊川いっぶく時代村」など今から心ワクワクしています。

この広報誌づくりを通じて皆さんと共に楽しみながら参加・活動して行きたいと思えます。

編集委員